

項目	事業名	担当課	(1)令和元年度実施状況				(2)目標指標の状況				
			取組内容	協働の相手		事業の評価	効果又は理由(改善策)	基準値(H27)	目標値(R3)	現状値(R1)	今後の方向性
				①~⑦	団体名						
(1)情報交換の「場」をつくる	地域活動・市民活動交流会	市民協働推進課	・なすしおばら市民フェスタ2019の開催 開催日:令和元年11月15日(金)~11月17日(日) 場所:市民活動センター 参加者:62名 ・なすしおばら×協働サミット2020の開催 開催日:令和2年2月15日(土) 場所:東那須野公民館 参加者:49名 ・地域円卓カフェの開催 開催日:毎月1回 ※11回開催 場所:市民活動センター 参加者:延145名	①②③④⑤	協働のまちづくり推進協議会	A	「市民フェスタ」を開催して、市民活動センター利用者協議会会員の活動報告と市民提案型協働のまちづくり支援事業の報告会をあわせて行った。	参加者数 97人	参加者数 150人	参加者数 256人	市民団体等に周知を図り交流団体を増やすための取り組みが必要。
	市民活動センターの設置運営	市民協働推進課	市民活動センター利用者協議会の設置と事業について検討を行い、令和元年6月20日に協議会を設立した。	①②③④⑤	市民活動センター利用者協議会	A	協働のまちづくり推進協議会を解散して、市民活動センター利用者協議会を設置した。	センター設置 未設置	センター設置 設置	H30.4.1 設置	平成30年4月に「市民活動センター」を設置し目標を達成し、令和元年6月には「市民活動センター利用者協議会」を設置したことにより、利用者協議会と連携して事業を実施していく。
	結婚サポートセンターの設置運営	市民協働推進課	結婚サポートセンターの運営 縁結び事業・とちぎ結婚支援事業の実施	①⑦	個人ボランティア とちぎ未来クラブ	A	H33のセンター設置目標はクリアできたが、なかなか利用者増が図れない。	センター設置 未設置	センター設置 設置	H29.7.6 設置	計画より早く目標値(H33)を達成したので、更なる運営の充実を図る。
	消費生活と環境展	生活課	消費生活と環境展の開催(参加協力団体:34団体、来場者約950人)	②	消費生活推進連絡会	C	来場者に対し、身近な消費生活や環境問題についてパネル展示・ステージ発表し、情報提供を行うことができた。	来場者数 1,200人	来場者数 1,500人	来場者数 950人	イベントの認知度を上げ、旧西那須野地区、旧塩原地区からの来場者を増やすため取組みが必要。
	ふれあい広場	社会福祉課	イベントの後援及び出店:第37回ふれあい広場 開催日:令和元年度9月28日(土) 場所:那珂川河畔公園 自由広場 参加者:42団体参加 内容:福祉施設紹介、参加団体の展示・即売等	①②③ ④⑤⑦	市福祉事務所、市心身障害児者父母の会、多機能型事業所「心の里」、手話サークル弥生会、高校生ボランティアグループ「とんぼの会」、特別養護老人ホーム「あじさい苑」、新緑町婦人部、喫茶店ホリデー、市生活学校、シルバー大学校北校黒磯同窓会、黒磯地区老人クラブ連合会、点訳サークルでこぼこ、ふれあい元氣太鼓、黒磯管内民生委員児童委員協議会、菅間記念病院、のびる会・アイサポート那須、社会福祉法人 京福会、多機能型事業所「つくし」、那須塩原市ふれあいの森、たかばやしそば研究会、ボーイスカウト那須塩原第1団、レイナニ・フラ、セルフあじさい、フォークダンス舞夢、市レクリエーション協会、那須塩原フライングディスク協会、県作業療法士会那須支部、NPO法人なす食育塾、市職員労働組合 現業評議会、健康増進課(黒磯保健センター)、陶友クラブ、地域自立支援協議会、(株)テトテ、のほら園、(有)アミスタネットワーク(あみすた園)、ゆずり葉、run伴チーム栃木、黒磯カエデクラブ、虹ヶ丘幼稚園、なすの齋場、らくらくオアシス、ボランティアセンター	B	当該イベントに、行政、法人、地域の団体、NPOなど、多くの分野から参加があり、市民同士のふれあいがあった。	参加団体数 39団体	参加団体数 49団体	参加団体数 42団体	本イベントは、ふれあい広場実行委員会が主催し、市はイベントの後援及び出店を行っている。今後もイベントの後援及び出店を行っていく。

プロセス2 意識を高める(学ぶ)

項目	事業名	担当課	(1)令和元年度実施状況				(2)目標指標の状況				
			取組内容	協働の相手		事業の評価	効果又は理由(改善策)	基準値(H27)	目標値(R3)	現状値(R1)	今後の方向性
				①~⑦	団体名						
(1)情報交換の「場」をつくる	社会福祉大会	社会福祉課	イベントの主催：第14回那須塩原市社会福祉大会 開催日：令和2年1月25日(土) 場所：三島ホール 参加者：各種団体及び社会福祉功労者賞の受賞者多数 内容：表彰、講演会	①②③④ ⑤⑥⑦	市社会福祉協議会、市自治会長連絡協議会、市民児協連合会、市老人クラブ連合会、市身体障害者福祉会、市心身障害児者父母の会、ひとり親家庭福祉連合会、市在宅老人介護者の会、受賞者多数	B	当該イベントに、行政、福祉団体、ボランティア団体など、多くの分野から参加があり、市の福祉向上が図れた。	大会の開催 開催	大会の開催 充実	大会の開催 開催	大会を開催開催に当たり、マンネリ化しないようにリニューアルを図っていく必要がある。平成30年度はオスマン・サンコン氏の講演を行い、令和元年度は八名信夫氏(俳優)の講演を行うなど、集客に向けた工夫を行った。
	なすしおばらまなび博覧会	生涯学習課	宇都宮共和大学那須キャンパスを会場に、令和元年11月9日(土)・10日(日)の2日間実施した。 来場者数合計10,000人。 【来場者数内訳】 ・10日(土)4,500人 ・11日(日)5,500人	①②⑤	市内各小中学校(義務教育学校含む)家庭教育オピニオンリーダー黒磯支部たんぼの会国際交流協会等	A	小中学生(義務教育学校の児童生徒を含む)による事例発表や児童生徒作品展、社会教育施設の事業紹介、体験コーナー、音楽会、各種講演会など、様々な催しを行い、昨年同様、生涯学習の振興と学校教育・社会教育の充実を図ることができた。	来場者数 7,100人	来場者数 10,000人	来場者数 10,000人	来場者は目標に到達した。しかし、年度によって土日の増減があるため、更に内容の充実を検討しながら、目標値の継続が図れるように引き続き事業を遂行する。
	貸館による市民活動支援	公民館	市内15公民館において、市民グループ、各種団体に対し、活動の場を提供した。	①②③④ ⑤⑥⑦	各市民グループ、団体	C	台風によるイベントの中止、新型コロナウイルス感染症防止対策による利用制限により、利用件数及び利用者数が減少した。	利用者数 406千人	利用者数 440千人	利用者数 369千人	目標値に向け、利用者が安心して活動が行えるよう、衛生管理の徹底、計画的な施設の修繕、改修を実施していく。
	家庭教育支援事業	公民館	公民館と各小中学校、地域住民が協働し、家庭教育に関する学習、親子交流事業を実施した。	①⑤	地域住民 市内各小中学校	C	学校関係者や地域住民に家庭教育に関する学習機会の提供や、親子の交流の機会を提供することにより、地域住民や親子の絆を深めることができた。	参加者数 11,000人	参加者数 12,000人	参加者数 9,500人	学校、地域、家庭が連携・協働しながら、地域全体で子供の成長を支えていく地域学校協働本部事業に取り組んでいることから、本事業についても、内容の充実を図りながら、引き続き実施していく。
	ひよこの会(託児ボランティアの活用)	三島公民館	1歳~就園前の幼児を持つ親を対象に、育児や家庭教育に即した学習プログラムを実施し、親同士の仲間作りの場を提供した。(全12回。延べ参加者数651人)	②	ひよこの会保母グループ	A	①託児ボランティアの活用により、受講者が安心して講座に参加できる。 ②託児ボランティアの方々は、育児の先輩として受講者の相談役を担うことができる。	延べ参加者数 461人	延べ参加者数 484人	延べ参加者数 651人	延べ参加者数の目標値はH28に達成されたが、参加者数は年度によって増減があるため、引き続き安定した参加者確保のためのPR活動を充実し、家庭教育の啓発に努める。
(2)「協働」を体験する仕組みをつくる	協働事例集の作成・配布	市民協働推進課	協働のまちづくり推進協議会調査研究部会において作成した「市民活動に関する調査報告書」を、必要な方に配布した。	①②	協働のまちづくり推進協議会	C	配布部数が少なかった。また、平成28年4月に作成したものであるため、状況によっては新版を作成する必要がある。	事例集の作成 実施	事例集の作成 充実	配布希望者への配布	市民活動センター利用者協議会と市民活動センターと連携し、情報を収集し、令和3年までに新版の「事例集」を作成したい。
(3)人材を活用する仕組みをつくる	各種審議会等委員への市民の登用	市民協働推進課	審議会・委員会等における公募による委員数5名	①	個人	D	委員の選出は各課の方針に基づき、関係団体等からの推薦によるものが多いため、なかなか目標値に達しない。	市民登用 40人	市民登用 50人	市民登用 5人	公募制度の積極的な活用の促し方を検討する必要がある。
	女性の人材登録制度	市民協働推進課	登録者数：21名(令和2年3月31日時点)	①	個人	B	各種専門分野で活動している女性を人材リストに登録し、庁内へ女性の人材リストを周知したが、利用の依頼が無く、女性の登用を促進することができなかった。	周知・促進 実施	周知・促進 充実	周知・促進 実施	庁内からの利用依頼を待つだけでなく、リスト登録者に対して、県や市の研修やセミナーを案内する等、リストを活用する。
	統計調査員確保対策事業	市民協働推進課	新規登録調査員希望者 23名 統計調査員研修会 20名(令和元年7月17日) 学習会 15名(令和元年8月26日) 栃木県統計大会参加 23名(令和元年12月12日)	①⑦	那須塩原市統計調査推進協議会	C	あらかじめ統計調査員となる意思を有する者を登録し、統計調査員の確保及びその資質向上を図ることができた。	希望者数 149人	希望者数 160人	希望者数 145人	学習会等の開催により、調査活動の基礎を身に付ける機会を増やし、新規登録調査員の確保に取り組んでいく。

プロセス2 意識を高める(学ぶ)

項目	事業名	担当課	(1)令和元年度実施状況				(2)目標指標の状況				
			取組内容	協働の相手		事業の評価	効果又は理由(改善策)	基準値 (H27)	目標値 (R3)	現状値 (R1)	今後の方向性
				①~⑦	団体名						
(3)人材を活用する 仕組みをつくる	生涯現役応援体制構築事業	高齢福祉課	シニアサポーター活動資料の作成協力	①	個人	C	シニア世代の社会参加を促し、生涯現役社会の実現へ向けた機運づくりを進める。	サポーター数 3人	サポーター数 10人	サポーター数 6人	シニアサポーターと連携し、生涯現役応援体制の構築について、検討を進めていく。
	生涯学習出前講座(市民編)	生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> <li>登録数 53講座</li> <li>延べ実施回数 20回</li> <li>延べ利用者数 376人</li> </ul>	①②⑤	出前講座登録市民ボランティア(個人、団体)	A	事業の認知度の上昇やリピーターの増加により、実施件数が増加したと考える。 ・広報なすしおばらに特集ページを掲載した。 ・実際利用している様子取材し、Facebookに掲載した。	実施件数 11件	実施件数 20件	実施件数 20件	実施件数は目標に達したが、実施講座に偏りがあるため、引き続き、生涯学習情報誌「マナビボックス」やホームページ、Facebook等でPRし、目標達成を継続をしたい。 併せて、新規利用団体を増やすため、PR活動の工夫を行う。